

栃木県産業技術センター運営計画に関する計画期間5年間（R3～R7）の実績と評価について

令和8（2026）年6月26日

栃木県産業技術センター

「栃木県産業技術センター運営計画」（以下「計画」という。）に基づき、令和3（2021）年度から令和7（2025）年度の5年間に取り組んだ実績と評価は、次のとおりである。

1 注力技術と支援機能強化に向けた主な取組

（1）注力技術

＜ものづくりのデジタル化への対応＞

➤ものづくり企業におけるIoT・AIの導入・活用支援

✓ スマートものづくり研究会（R3～R7）

➤ものづくりにおけるデジタル技術、シミュレーション技術の活用支援

✓ モデルベース開発活用支援事業 デジタルものづくり体験セミナー（R6）

✓ デジタルものづくり導入事業（窯業）（R7）

＜戦略3産業の振興、未来3技術の活用による競争力強化及び“フードバレーとちぎ”の推進への対応＞

- 戦略3産業（自動車産業、航空宇宙産業、医療福祉機器産業）における県内企業の基盤技術の高度化や、未来3技術（AI・IoT・ロボット技術、光学産業、環境・新素材技術）の活用による競争力強化を支援した。

➤重点共同研究

戦略3産業、未来3技術における技術基盤の強化に資する共同研究 10 課題（R3～R7）

✓ 「協働ロボットによる自動化工程の更なる生産性向上に関する研究」

✓ 「水と二酸化炭素によるカテーテルチューブ内表面改質法の開発」ほか

- フードバレーとちぎにおける県内食品関連企業の新製品・新技術の開発を支援し、企業参加の研究部会活動や共同研究を通して、高機能・高付加価値食品の開発を促進した。

➤重点共同研究

食品関連産業分野における技術基盤の強化に資する共同研究 6 課題（R3～R7）

✓ 「干し芋製造残渣の食品素材化に関する研究」ほか

➤高機能・高付加価値食品開発研究部会（R3～R5）

✓ おいしさの見える化分科会（R3～R5）

✓ 品質保持技術分科会（R3～R5）

➤サステナブル食品開発研究部会（R6～R7）

＜地域産業技術分野への対応＞

- 本場結城紬振興協議会、益子焼関係団体振興協議会等に参画するとともに、地域産業の振興や活性化を支援した。

➤後継者育成事業

✓ 伝習生・研究生受入れ（R3～R7） ✓ 糸つむぎ講習会（結城紬）（R3～R7）

✓ 多工程等研修（結城紬）（R3） ✓ 一貫生産工程研修（結城紬）（R4～R6）

✓ 多品種・多品目生産研修（結城紬）（R7） ✓ 窯業体験型短期研修（R5～R7）

✓ 新商品開発支援強化事業（専門家（窯業技術）による相談窓口設置）（R5～R7）

（2）支援機能強化に向けた取組

＜施設・機器整備への対応＞

- ▶支援拠点の整備（地方創生拠点整備交付金を活用）
 - ✓ものづくり企業の試作開発・生産工程変革支援拠点（R3～R4）
 - ・樹脂3Dプリンタ（2機種）、回転式切削動力計、加工データ解析装置 等
- ▶測定・試験・分析に使用するための機器整備（JKA 補助事業を活用）
 - ・走査型電子顕微鏡（金属観察用）／示差走査熱量計／樹脂埋込装置／
顕微ラマン分光装置／EMI 全自動測定システム

＜職員の資質向上への対応＞

- ▶外部機関への派遣研修
 - ✓産総研等の外部機関への職員派遣 延べ89名（R3～R7）

（3）公的機関としての責務

- ▶職員への研究不正防止に係るコンプライアンス教育及び研究倫理教育の実施

2 各支援業務の達成状況

計画に掲げた支援業務ごとの目標の達成率は以下のとおり。コロナ禍後、県内製造業の付加価値額は大きく落ち込み回復には時間を要した。加えて、原材料価格の高騰、調達不安、人手不足、米国の関税施策の影響等により企業の収益環境は悪化し、企業の設備投資が抑制された。これらの外部要因により、複数の項目で目標未達となったものと考えられる。

次期計画に向けては、センターの認知度を更に高め、新規ユーザの獲得に努めると共に、企業ニーズの的確な把握や、研究成果の技術移転に向けた支援の更なる強化が求められる。

＜各支援業務の目標達成状況＞（※目標値達成率80%未満→赤）

支援業務	目標項目	基準値 H28-R2 (2016-2020)	目標値 R3-R7 (2021-2025)	実績値 R3-R7 (2021-2025)	目標 達成率
施設機器の開放・ 依頼試験	機器開放（件）	19,070	20,700	19,015	92%
	機器開放（時間）	114,611	117,300	118,906	101%
	依頼試験（件）	52,093	53,600	40,034	75%
研究開発	研究実施件数（件） （受託研究（調査型）を除く）	120	110	117	106%
	うち成果が企業で活用された研究	50	44	33	75%
	受託研究（調査型）実施件数（件）	-	75	47	63%
技術相談	技術相談件数（件）	48,111	50,000	46,191	92%
技術交流・連携	企業訪問調査件数（件）	3,663	3,700	3,392	92%
人材育成	機器取扱研修受講者数（人）	6,495	6,600	6,641	101%
	伝習生及び研究生受入等人数（人）	70	190	187	98%
技術情報の提供	ペーパーレスニュース配信（回）	291	250	252	101%

- ・整備した施設・機器を活用して、機器開放や機器取扱研修、依頼試験の利用を促進した。
- ・業界等が抱える技術課題の解決に資する研究に取り組むとともに情報発信に努め、成果の活用を図った。
- ・新技術・新製品開発や品質管理などの技術相談にきめ細かに対応した。
- ・新規導入機器やセンター事業、外部資金活用の周知や企業現場での技術相談など、計画的に企業訪問を実施した。
- ・伝習生・研究生制度のPR強化を図りながら地域産業の担い手育成に取り組んだ。
- ・適時適切なペーパーレスニュースの配信により、最新の情報を遅延なく提供した。